

「地域と連携し需要が落ち込んでいる生花の消費拡大に向けた研究」

熊本県立天草拓心高等学校

草花班 7名

今から草花班の発表を始めます。気をつけ、れい。（お願いします）

私たち草花班は「地域と連携し需要が落ち込んでいる生花の消費拡大に向けた研究」をテーマとしています。

研究の動機

コロナなどの影響により、生花の消費が落ち込んでいるので、草花での学びを通して、地域と協働し、生花を様々な場面で活用することで消費拡大のPRをしていきたいです。

目的達成のため成功の鍵となるポイント

- ① 専門の人や、花屋さんに教えてもらい練習すること。
- ② 天草地域の花き産業者に花き農家の現状を聞く。
- ③ 私達自身が草花にふれあうことでより関心を高める。

1、 最終の目標

天草産の生花を活用し、地域の方々に花の魅力をPRする。そして、生花の消費拡大に繋げることです。

2、 今年の目標

天草の花き産業についての理解を深める。
フラワーデザインの基礎基本を習得し、完成させることです。

活動計画（スケジュール）

まず、7月30日（木）に天草広域本部福島様より「花き産業」の講話をきく機会がありました。そこで私たちは、熊本の花き産業の現状や課題を知ることができました。講話後に広域本部の方々から花束をいただいたので、その花を使って、コサージュ作りをしました。

次に、9月11日（金）のコンソーシアム会議がありました。コンソーシアム会議では、天草広域本部の木庭さんと花き産業の現状・課題について話し合うことができました。また「フラワーアレンジメントに使う花材をどのように手に入れることができるのか」・「花を身近に感じてもらえるためにできること」などの私たちからの質問に対して丁寧に回答していただきました。

その話し合いの中で天草広域本部にて「花いっぱい運動」で展示するアレンジメントを提供していただくことになりました。

10月より毎週、天草広域本部へ花を受け取りに行きました。提供していただいた花には、ユリや、トルコギキョウ、バラ、ヒマワリ、ツルギキョウなどがありました。提供していただいた花は、生徒の目に一番ふれる場所にしたいと思い、自動販売機周辺と、家庭科棟から2階に登る階段付近に設置しました。

10月8日（木）と13日（火）に天草広域本部からいただいた花でフラワーアレンジメントの練習をしました。オアシスを見せないことや、花を綺麗に見せるための配置や配色を考えることが難しかったです。でもみんなと協力し、完成させることができました。

10月27日（火）にフラワーショップ花よどさんにフラワーアレンジメントの作り方を教わりに行きました。私達が教わったのはオールラウンドタイプというアレンジ方法です。完成形を考えながら花の配置・配色を決めていくのが難しかったです。フォーカルポイントをきめ、スパイラル状に順番に束ねることをアドバイスしていただきました。

11月10日（火）に、文化祭で先輩方にプレゼントするミニブーケをトルコギキョウや、ガーベラ、バラ、カーネーションなどの花を使って作りました。フラワーショップ花よどの淀川さんの指導のもと、花の切り方や、配置や配色を丁寧に教えてもらいながらきれいに作ることができました。

次の日の文化祭では、最後にLコレがあるのでサプライズにミニブーケを渡せるようにしました。うまくいくか不安でしたが、渡すときに先輩たちが、とても喜んでくれたので、ミニブーケを作ってよかったと思いました。また、この取り組みをケーブルテレビで放送されたので、ご覧ください。

11月20日（金）に、新和町のトルコギキョウの生産現場の視察に行きました。生産現場の施設では、面積は約2.1ha、出荷量は約60万本あり、品種は30品種以上です。また、大宮地のきれいな川の水を使っているのが、こだわりだとおっしゃっていました。他にも、今年度のトルコギキョウの生育状況は、天候の影響により2、3週間は遅れていること、生産現場を見て、1番最初に出た蕾は、栄養を分散させるためにとっていること、1本にたくさんの花をつけなければいけないので、3日に1回はかん水をしないといけないことなどをたくさんを学ぶことができました。生産者のたくさんの苦労や頑張りがあって初めて、きれいなトルコギキョウがあると思うと改めてすごいと思いました。

感想と今後の課題

私たちは、1年間を通して様々な場面で自ら花を加工することにより生花の

魅力を見つけ、花を身近に感じることができました。この取り組みで花の消費を拡大し多くの人に花に親しみをもってもらうことができて良かったです。来年度は、私たちのファッションショーでドレスに合うブーケを自分たちで作るため、フラワーアレンジメントの知識と技術をさらに身につけていきたいと思います。また、コロナ禍における効果的なPR方法を考えていきたいと思ひます。